

2026 年度 JICA 研修員の学校訪問 募集要項

1. 目的

- 1) JICA 中国が所管する中国5県の、幼稚園から高校までの園児・児童・生徒を対象に、開発途上国から来日している JICA 研修員と直接交流する機会を提供し、開発途上国や異文化理解、多文化共生に対する興味・関心を育てる。
- 2) JICA 研修員が日本の子どもとの交流を通じて、日本の社会、文化、教育についての理解を深める。

2. JICA 研修員とは

JICA の実施する技術協力の一環として、開発途上国政府からの要請に基づき、日本で専門的な技術を学ぶために来日している開発途上国の行政官や技術者等です。出身国はアジア・アフリカ・中南米・オセアニア等のさまざまな国や地域です。コロナ禍以前は全国で年間約1万人の研修員が来日し、そのうち JICA 中国では年間約 100 か国から約 500 名以上の研修員を受け入れてきました。研修員の中には、数週間から1年未満の期間に日本各地で滞在し国別やテーマ別に学ぶ短期研修員と、日本の大学院の修士課程・博士課程で学ぶ長期研修員がいます。

3. 内容について

- 1) 本コースの JICA 研修員は、基本的な英語会話能力を持ち合わせていることを前提としていますが、英語が母国語ではない者も含まれる旨ご了承ください。なお、先生方が交流プログラムを作成されるにあたり、交流テーマに関連する国の研修員がいるかどうか等の情報提供は可能ですが、研修員の国籍・性別・年齢などは指定できませんので予めご了承ください。
- 2) 本事業は、JICA 中国が本プログラムの業務を委託している、(公財)ひろしま国際センター(以下、HIC)研修部が実施を担当します。
- 3) 訪問当日は、HIC の職員1名が引率・同行しますが、同行者は、研修員の引率や緊急時のサポートを目的としています。学校側のプログラム(歓迎のあいさつ等を含む)の司会進行や通訳は行いません。通訳が必要だと感じられる場合は、学校にてご手配頂くようお願いいたします。
- 4) 交流プログラムは、受け入れる学校が主体的に企画し、HIC 担当者と調整しながら組み立ててください。
園児・児童・生徒が異文化理解や他者受容、開発途上国へ関心を持つきっかけとなるよう、事前・事後学習を含めた一連のカリキュラムの中に学校訪問を位置づけて頂くと効果的です。
- 5) プログラムが園児・児童・生徒による学習成果を研修員が一方向的に聞く発表ではなく、双方向の交流を意図したものになるよう、ご注意ください。
- 6) 運動会や文化祭等、学校行事での交流のご提案、土日祝日でのご提案も可能です。

研修員の母国語のあいさつや歌・遊びなどを学ぶ等、園児・児童・生徒が理解できるような形の、双方が体験を通じて自然に理解し合えるようなプログラム構成をお願いします。JICA 中国ホームページに掲載の交流プログラムの例や、学校訪問レポートも参考にしてください。



(JICA 中国ホームページ/交流プログラムの例、学校訪問レポート)

4. 実施日

今回は 2026 年度に実施する 7 回分の募集を行います。

実施する日程は、2026 年 5 月以降～2027 年 2 月頃までの期間とします。

岡山大学、山口大学、広島大学で学んでいる長期研修員（JICA 留学生）、又は短期研修員（行政官や技術者）が訪問します。

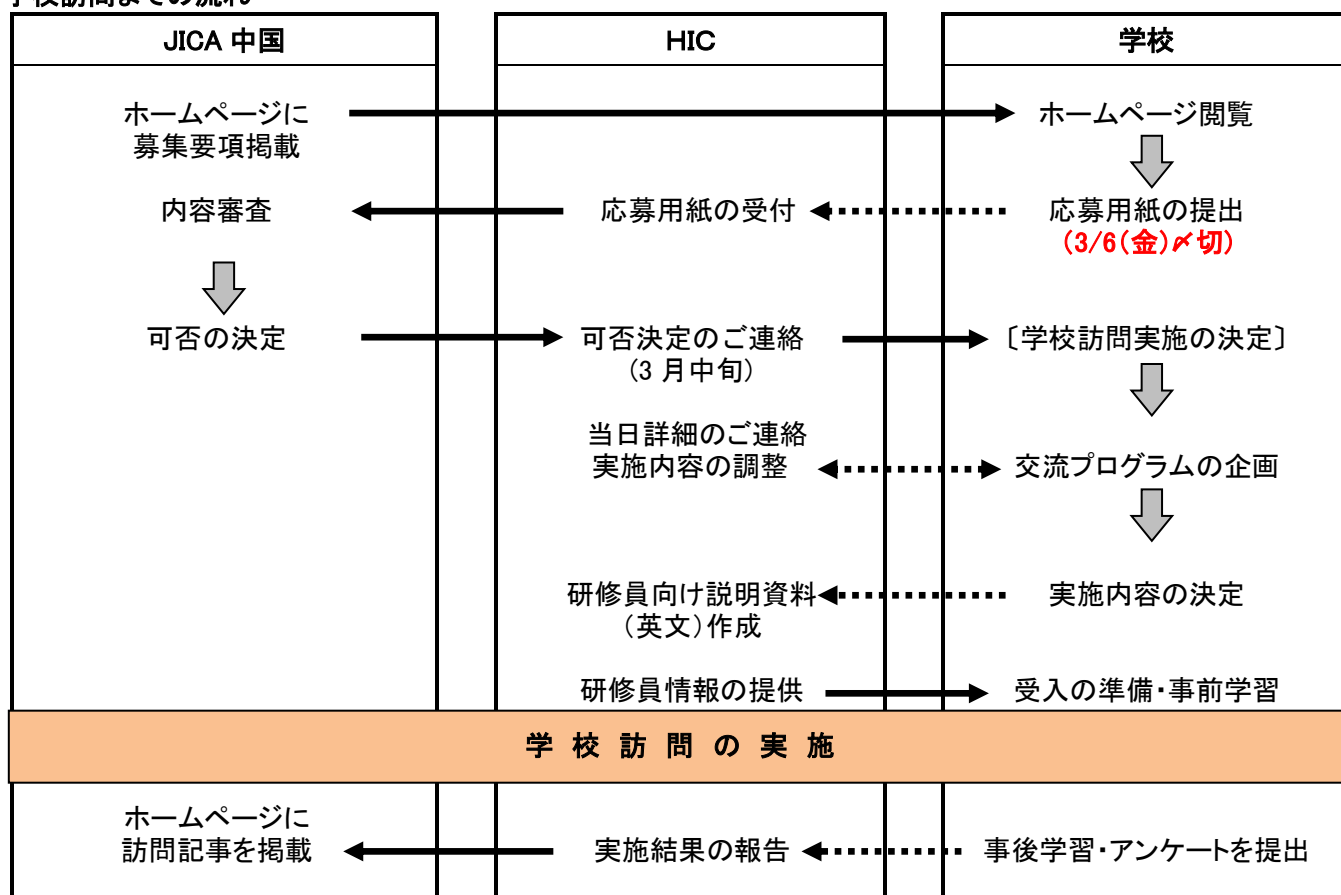
短期研修員の場合は、研修コースの全体日程と調整しますので、訪問日が決定するのが**実施日の 1 カ月程度前**になりますことを、予めご了承ください。

| 訪問年月日 | 研修員種別 | 対象国、研修員数 | 応募締切 |
|--|--|--|------------|
| 応募校が提案する日 (5 月～2027 年 2 月。 ただし 10 月を除く。) | 岡山大学、 山口大学、 広島大学の 長期研修員、 又は 短期研修員 | 訪問先決定後調整 | 3/6 (金) |
| 2026/10/22～10/30 のうちの半日(午後) | 短期研修員 (「学びの改善の ための教育政策 策定および分析能 力開発」コース) | カンボジア、ベトナム、インド、ネパール、パキスタン、 スリランカ、フィジー、パプアニューギニア、ツバル、イ エメン、エチオピア、ガーナ、マダガスカル、モーリシャ ス、ルワンダ、セネガル、アゼルバイジャン、キルギ ス、ウズベキスタン 計 19 名予定 | |

5. 学校訪問が可能な条件

- 1) 中国地方 5 県の幼稚園・小・中・高・特別支援学校・中等教育学校・義務教育学校等です。
- 2) 応募の際の提案内容は、研修員の**移動時間を含めて原則 9 時半～17 時半まで**で実施できる交流プログラムに限ります。
- 3) JICA 中国(もしくは岡山大学、山口大学)から学校までの移動時間は、片道 2 時間程度(高速道路使用)を上限とし、それを超える場合は、場合によってはお断りすることがありますのでご了承ください。

6. 学校訪問までの流れ



7. 応募方法

別紙「JICA 中国研修員の学校訪問 応募用紙」に必要事項をご記入いただき、下記お申し込み先まで、E-Mail または FAX にてご応募ください。

8. 応募✕切

3月6日(金)必着

※応募締切後2週間以内を目安に選考結果をご連絡の予定です。

9. 選考方法

- 1) 応募用紙を確認の上、本プログラムの目的に合致すると判断される企画内容を選考させていただきます。
- 2) 募集回数を超えるご応募があった場合には、応募頂いたプログラムの内容にて訪問校を決定します。プログラム内容が類似している場合は、原則としてこれまでに本プログラムを実施したことのない学校を優先します。
- 3) 訪問校決定後、提案日程に合わせて参加研修員の募集を行います。その為、参加研修員の人数確定までお時間を頂くこととなる旨、ご了承ください。またご提案された日での交流のご希望に添えない場合がございます。その場合は日程の変更や、調整がつかない場合はプログラム実施の中止をお願いする場合がございます。
- 4) その他、感染症の流行や天候等止むを得ない理由によりプログラムが中止となることがあります。

10. 経費について

- 1) 研修員及び同行者の交通費をご負担いただく必要はありません。謝金等も不要です。
- 2) 交流プログラム内容によって必要となる経費(給食代、茶菓代、文房具、通訳備上費など)は、原則学校負担となります。

11. 今年度、訪問先よりいただいたご感想

普段勉強している英語で話して、伝わったことはとても嬉しかったです。

(公立中学校生徒)

いろいろな国について知ること、その国の特徴、生活の様子がよくわかった。

(公立中学校生徒)

バングラデシュのことについてあまり興味がなかったけれど、今回のJICA研修員訪問でバングラデシュに興味がわきました。国によって文化や価値観が違うことがわかりました。

(公立高校生徒)

もともと持っていたその国のイメージは、実際にその人に会ってみると全然違うということが分かった。だから、このグローバル社会の中で生きるにはステレオタイプをなくさないといけないと思った。

(公立高校生徒)

JICA 研修員と会話をするのができて楽しかったです。日本の文化を教えるときに、研修員のチャレンジしたいという気持ちが伝わり、もっと楽しくなりました。

(国立小学校児童)

他の国の方々と触れ合える機会をもらえたのが楽しかったし、一緒にいてもすごく楽しかったです。このような体験をまたしたいなと思いました。

(国立小学校児童)

自分と違う国の人、違う文化をもつ人と接するときに気をつけることについて、考えることができるようになった。

(公立中学校教員)

今回の交流活動がきっかけで、自分からコミュニケーションを取ろうとする姿勢が見られる生徒が増えたように思う。知らないことを知ることを楽しんでいる様子が顕著に見られた。

(公立中学校教員)

お申し込み&お問合せ先

(公財)ひろしま国際センター研修部 担当:河原(かわはら)
〒739-0046 東広島市鏡山 3-3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL:082-421-5900 Fax:082-421-5751
E-MAIL:hiccken_bri@hiroshima-ic.or.jp

※この事業はJICA 中国の委託により当財団が運営しています。